1. 開催概要

展覧会名	マルセル・デュシャンと日本美術	
開催施設名	会期	入場者数
東京国立博物館	2018 年 10 月 2 日～2018 年 12 月 9 日	80,191 人

●開催概要

マルセル・デュシャン(1887 － 1968)は、伝統的な西洋芸術の価値観を大きく揺るがし、20 世紀の美術に衝撃的な影響を与えた作家である。本展覧会は2部構成で、第1部「デュシャン　人と作品」(原題:The Essential Duchamp)展は、フィラデルフィア美術館が有する世界に冠たるデュシャン・コレクションより、油彩画、レディメイド、関連資料および写真を含む計 150 余点によって、彼の創作活動の足跡をたどるものであり、フィラデルフィア美術館蔵のデュシャン・コレクションがまとまって海外で初めて公開された展覧会となった。

第 2 部「デュシャンの向こうに日本がみえる。」展は、もともと西洋とは異なった社会環境のなかで作られた日本の美術の意味や、価値観を浮かび上がらせることによって、日本の美の楽しみ方を新たに提案しようとしたものである。デュシャンの作品とともに日本美術を比べて見ていただく世界ではじめての試みとなった。

この展覧会では「芸術」をみるのではなく「考える」ことで、来場者のさまざまな知的興奮を呼び起こすきっかけとなった。2018 年 11 月 8 日の毎日新聞の夕刊においては、「第 1 部が正統派の回顧展なら、第 2 部は変化球だ。東博が所蔵する日本美術の名品を並べ、デュシャン作品との共通点や差異を考えさせる趣向」と評している。また、2018 年 10 月 25 日朝日新聞朝刊においても、鑑賞者に芸術とみなす「根拠」を考えさせることに展覧会の意義があると評している。

2. 美術品補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

・入場料の無料化・軽減等

本展を貴重な教育・学習機会として広く国民に提供できるよう、通常の特別展料金より、一般 200 円、大学生 100 円、高校生 200 円を減額し、一般は 1,400 円、大学生 900 円、高校生 700 円とした。その結果、当初入場見込みであった 60,000 人を大幅に上回る 80,191 人の入場があった。また、有料入場者数も当初見込みである 48,000 人を超える 56,320 人であった。

・展示作品の質・量の充実

国家補償制度を適用することにより、デュシャン作品の中でも特に著名なレディメイドを含め、高品質の作品の借用及び展示が可能となった。また、国家補償制度の適用により、展示効果を高める工夫も可能となり（約 9,700 千円）、JAPAN TIMES 紙では、「色をふんだんに使いゆったりとしたスペースをアーチで区切るなど、美しくデザインされている」との好評を得るなど、広報効果及び来場者への裨益効果は高いものとなった。

・教育普及活動の充実

フィラデルフィア美術館学芸員による講演会では同時通訳を実現（約 1,000 千円）、現地の学芸員の講義をわかりやすく提供できた。

記念講演会「デュシャンの本質」（10 月 6 日開催）参加者数 292 人

・トークショー「デュシャンの向こうに日本がみえる。」（10 月 16 日開催）参加者数 320 人

3. 事故の有無（軽微な事故、ヒヤリハット事例も含む）

特になし

4. 安全配慮に関する特別の対応

輸送については、美術品の取り扱いに慣れた輸送業者を選定、危険分散の意味でも3便に分けて輸送、国内輸送はいずれも先方クーリエ及び主催館の職員が同乗し、積込など作業の監督にあたった。

展示中は、温湿度管理を徹底し、詳細にモニターし、状態の変化をこまめに確認、データは先方と共有することで信頼を得た。

5. 紹介事例・今後の改善点等

当館はフィラデルフィア美術館との交流のなかで、日本国内の文化財に関わる業務全般に協力してきた。そのような関係性のもと、同館の世界的に注目を浴びるデュシャン・コレクションが当館に貸し出されることとなった。また当館は「現代美術」を展示することは一般的でないが、デュシャンの芸術的足跡を御覧いただくことで、明治以来の日本美術の鑑賞方法—西洋美術の価値観に基づく—ではない、新しい日本美術の鑑賞体験となる機会となった。第 1 部は同館キュレーター、マシュー・アフロン氏により企画監修されたが、東博側からの出品作品の希望も勘案され、東博スタッフによる展示デザイン、グラフィックデザインなどの提案が各所に反映され、両館の学芸的意図が融合した展示会場として完成した。会場では日英中韓の章解説、作品解説も用意された。また会場の環境保存的観点から両館の専門家の検討、討議も深く行われた。近年の東博の「特別展」は、メディア各社と共同開催するものが多いが、本展は挑戦的な特別展として独自の財源を組み上げ、賛助会寄付金、入場料金などを主な財源として自主開催された。そこでは TERRA FOUNDATION FOR AMERICAN ART の助成を得て、講演会などの普及活動が実施されたほか、各種企業からは展示に関わるさまざまな機材提供を受けることができた。

そして自主独立展として、通常できない事業を各種展開することができた。1 部、2 部ともに自館コレクションのため、会場全般で来館者自身の作品撮影が許可され、SNS 利用によって本展が紹介されることが多々見られることとなった。また展覧会独自の Web サイトやツイッターアカウントの開設、展覧会マスコット、グッズの作製などとともに、現在各方面で活躍する美術家やクリエイターの方々に出演いただく動画の配信を行った。さらには通例の音声ガイドではなく、「デュシャン大喜利」なる展示作品を楽しむための実験的方法も試みた。これらの成果として本展にはデュシャンを特段、知らない 20～30 歳代の年齢層の来館者を多く集め、日本において今後のデュシャンの芸術理解に大きな意味を持つ結果を得た。

本制度については、当館ウエブサイトの展覧会紹介ページおよび展覧会公式サイトならびに展覧会場入口のメイン看板、さらに展覧会出版物（日本語版英語版）等に記載し、広く告知した。ちなみに、銀座蔦屋書店イベント等でも本制度の利用について告知し、展覧会の内外で周知に努めた。

6. 展覧会の収支決算書

主催者名　東京国立博物館、フィラデルフィア美術館

●収入

区分	内訳	決算額 (当初予算額)
展覧会収入	【入場料】	万円 5,124 (5,804)
	【図録売上】 1,500円×2,265冊	339 (650)
	【関連グッズ売上】	208 (0)
	【その他】 運営費交付金	271 (0)
その他の収入	【協賛金・寄附金】 賛助会寄附金	4,985 (1,564)
	【補助金・助成金】 テラアメリカ美術財団	334 (330)
	【その他】	0 (0)
赤字	【補填内容】	0 (0)
収入総額		11,261 (8,348)

●支出

区分	内訳	決算額 (当初予算額)
企画準備等基本経費	【借用料】 作品写真利用料	万円 25 (0)
	【謝金】	2 (6)
	【保険料】	(900)
	【輸送費】	3,107 (2,000)
	【クーリエ等招聘費】	131 (200)
	【図録制作費】	422 (200)
	【その他印刷費】 グッズ制作費	151 (180)
	【企画構成費】	
	【その他(交渉費・職員旅費等)】 翻訳・監修費	30 (30)
設営・運営等会場関係経費	【広告・宣伝費】 交通広告・チラシ制作費	1,046 (1,500)
	【展示施工費】	3,171 (1,850)
	【会場事務費】	577 (0)
	【監視・警備費】	1,878 (1,260)
	【その他】	721 (222)
利益	【利益の使途】	0 (0)
支出総額		11,261 (8,348)